

前中榮子ソプラノリサイタル

第二十二回

ピアノ ◆ 花岡千春

日本のうたを歌うー愛と平和への祈りー

第一部 ◆ はる 谷川俊太郎詩 團伊玖磨曲

さくら横ちよう 加藤周一詩 別宮貞雄曲

ほおずき 萩原朔太郎詩 三善晃曲

五月 萩原朔太郎詩 三善晃曲

爽やかな五月に 立原道造詩 柴田南雄曲

「二番目に言いたいこと」 星野富弘詩 なかにしあかね曲

いつだったか 秋のあじさい 山に行こう よろこびが集まったよりも
いちじくの木の下 今日もひとつ 二番目に言いたいこと

第二部 ◆ 「秋の瞳」 八木重吉詩 石桁真礼生曲

ゆうやけ あめの日・雨 本当のもの 白い雲 静かな焰 秋の空

ばらの花に心をこめて 大木惇夫詩 山田耕筰曲

お菓子と娘 西条八十詩 橋本国彦曲

ー愛と平和への祈りー

死んだ男の残したものは 谷川俊太郎詩 武満徹曲 寺島陸也編曲

くちなし 高野喜久雄詩 高田三郎曲

歌をください 渡辺達生詩 中田喜直曲 他

二〇一四年四月二十九日(火・祝)

開演十四時 開場十三時半 全自由席 四、〇〇〇円

津田ホール

JR千駄ヶ谷駅下車 徒歩一分
都営地下鉄大江戸線国立競技場駅A4出口より徒歩一分

お問合せ・チケット取扱 ◆ 二期会チケットセンター 〇三―三七九六―一八三一

◆ 前中榮子事務所 〇四八―四七九―一五四〇 (同ファックス)

チケット取扱 ◆ 東京文化会館チケットサービス 〇三―五六八五―〇六五〇

チケット発売 ◆ 二〇一四年一月九日

後援 ◆ 公益財団法人東京二期会 二期会日本歌曲研究会 公益社団法人日本演奏連盟

マネジメント ◆ 公益財団法人東京二期会

前中榮子ソプラノリサイタル

第二十二回

日本のうたを歌うー愛と平和への祈りー

前中榮子

まえなか・えいこ ◆ソプラノ



大阪府堺市に生まれる。大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業。伊藤京子、中山悌一、浦山弘三、瀬山詠子、レッサ・コレワ（声楽）各氏に師事。二期会関西支部研究生修了後、東京に演奏活動を移す。

1980年ジョイントリサイタル、1982年第1回リサイタルを開き東京での演奏活動を開始。1985年第2回リサイタルでは、日本歌曲の言葉に対する絶妙なりアクシヨンとヒューマンな歌唱表現を称賛され、NHK・FMの推薦を得る。1986年より日本の歌をうたうシリーズを始める。1988年作曲家・湯山昭氏をゲストに「湯山昭の夕べ」を開く。1989年韓国に招かれ、心身障害者のための、チャリティーコンサートをソウル市内で12回公演、好評を博す。1991年ミュンヘンにてハンス・ホッター特別マスターコース講演会に参加。1995年第10回リサイタルを作曲家・中田喜直氏をゲストに、山田康子基金の助成を得て「中田喜直の世界」を開催。1996年所沢出身女流歌人の詩を歌い、NHKニュースや埼玉テレビで放映される。CD・尺八・十七弦と共演の「じゃがたら文」がN・Yリンカーンセンター内のホールにて日舞と共演第11回リサイタルを大阪と東京で開く。1997年第12回リサイタル・1998年母校、篠山鳳鳴高校音楽部創設50周年記念・たんば田園交響ホール開館10周年記念主催のリサイタルでは満員の観客にて大好評を博す。1999年第13回リサイタル、丸木美術館主催8月6日「ひろしま忌」に出演、2012年第21回リサイタル。

近年では「愛と平和への祈り」をサブタイトルに毎年リサイタルを開催、二期会日本歌曲研究会演奏会に出演等、日本歌曲を中心に演奏活動を続けている。これまでのリサイタルでは、『音楽の友』、『現代音楽』、『シヨパン』に好評を博す。

CDを10枚リリース。最近作は第20回リサイタル記念「前中榮子日本の歌をうたう」、二期会メンバーのプリマドンナたちによる美しき日本語の歌「なごみの歳時記」日本歌曲の深さに年々魅せられている。

IL CANTO DEL CUORE（歌は心）主宰、日本演奏連盟会員、二期会会員

前中榮子ホームページ <http://www.5oem.ncjp/~eiko2114/>

花岡千春

はなおか・ちはる ◆ピアノ



東京藝術大学器楽科ピアノ専攻卒業。同大学院ピアノ専攻科修了。在学中よりNHK・FM放送、毎日新聞社主催「毎日ソリスト」などに出演。故安川加壽子女士に師事。大学院修了直後フランスに留学。パリ・エコー・ノルマル音楽院にてコルトーの高弟ジャン・ミコー氏に師事。翌年、審査員全員一致の第一等首席を取得卒業。

以後は同院のアシスタントとして後進の指導に当たりながら、ヨーロッパ各地で演奏。その後イタリアに居を移し、カセッラの高弟ピエロ・グワリーノ氏のもとで研鑽を積む。フィナレ・リグレ国際ピアノコンクール、マリオ・ザンファイ・リスト国際ピアノコンクール等に上位入賞。

帰国後は、ソロリサイタルをはじめ、室内楽や歌い手との共演、CD録音、FM放送、テレビ放送に活躍。テーマ性の強いリサイタルは各方面から評価を得ている。1999年開催した独奏会『パリ、祝祭と狂乱の1920年代』で第54回文化庁芸術祭音楽部門大賞を受賞。2011年9月発売のCD「日本の変奏曲」で平成23年度（第66回）文化庁芸術祭レコード部門優秀賞を受賞。平成24年には松本市文化芸術大賞を受賞。ソロCD10枚（ベルウッドレコード）、著書「ピアノを弾くということ。」（フィルムアート）、共演のCDは40枚以上を数える。楽譜の校訂（春秋社、音楽之友社）なども継続的に行っている。演奏活動と共に各地のコンクール審査員も歴任。2002年より文部科学省の新進芸術家海外派遣制度選考委員なども務めている。

現在は国立音楽大学教授並びに同大学院教授。